

臨時株主総会及び 普通株主様による 種類株主総会

補足資料

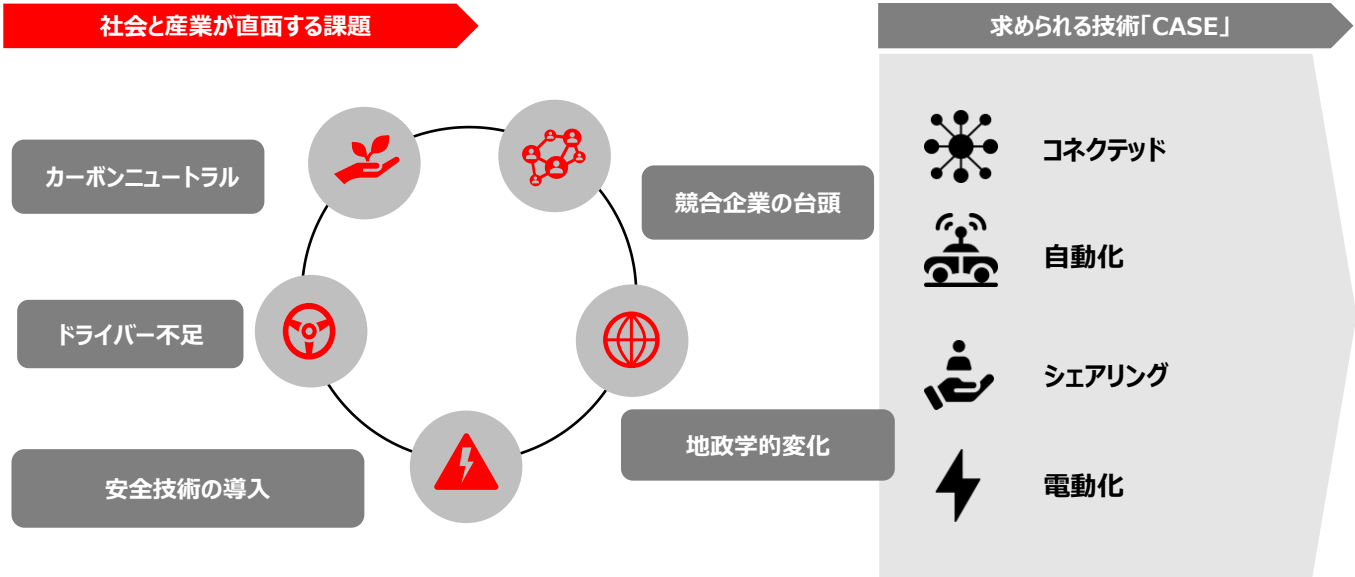
経営統合の意義・プロセス
新持株会社の概要
株式交換等について
要点を整理いたしました
是非ご高覧ください



日野自動車株式会社

■ 本経営統合の背景

商用車業界は、多くの社会課題や中国など競合企業の台頭などへの対応が求められる大変革期にあります。その対応には、CASEとも呼ばれる、先進技術を実装する、技術力と投資が必要です。



※CASE：モビリティ変革を表す4つの領域
（「コネクテッド」、「自動運転」、「共有・サービス」、「電動化」）

■ 4社共通の想い

「商用車の未来をともに作る」という目標のもと、日野、三菱ふそう、トヨタ、ダイムラートラックの4社に共通する、「モビリティを通じて豊かな社会に貢献する」という想いを日野と三菱ふそうの経営統合を通じて実現してまいります。

商用車の未来をともに作り、ステークホルダーの皆様に貢献する



■ 本経営統合で実現したいこと

本経営統合を通じて、伝統的かつ異なる企業文化を持つ日野と三菱ふそうが、信頼と相互尊重の精神のもと、真に融合し、業界のリーディングカンパニーであるダイムラートラックとトヨタの技術的な支援を受けながら、事業効率を高め、さらなる競争力強化を図ってまいります。またこれにより地球環境に優しく安全なクルマを普及させ、社会における移動の価値を高めていくと同時に、日本とアジアにおける商用車のリーディング企業を目指してまいります。

日本とアジアにおける商用車と技術のリーディング企業を作る

公平性、信頼、相互尊重に基づく協業

日本発のアジアにおける豊富な知見とグローバルマインドセットを有する2つのブランド

規模拡大、シナジー創出、変革実現に向けた統合プラットフォーム戦略とCASE戦略

業界のリーディングカンパニーであるダイムラートラックとトヨタの支援

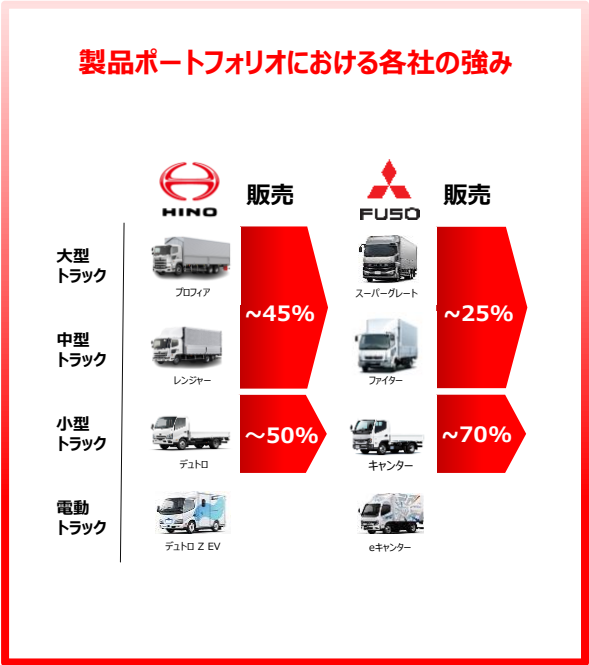
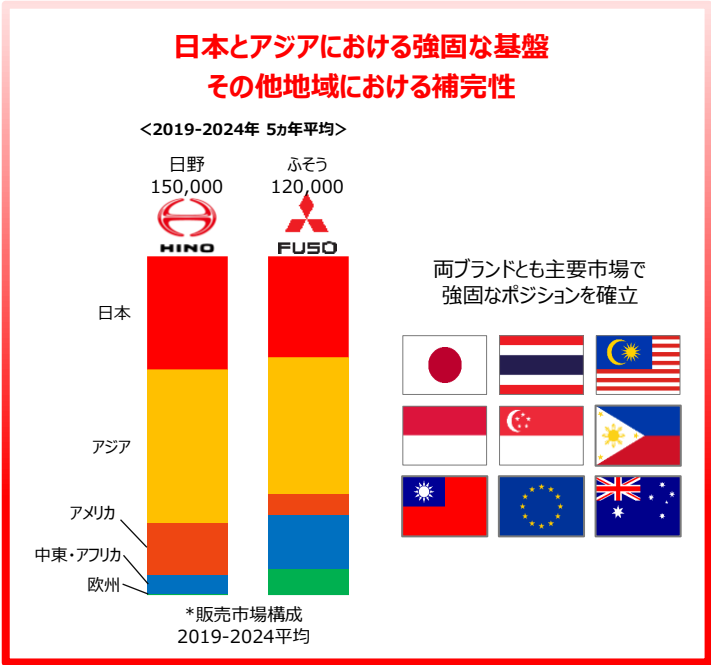
強固なガバナンスと明確な財務目標

人と物の効率的な移動を通じて、社会を確かに支え続ける



■ 市場と製品ポートフォリオの補完性

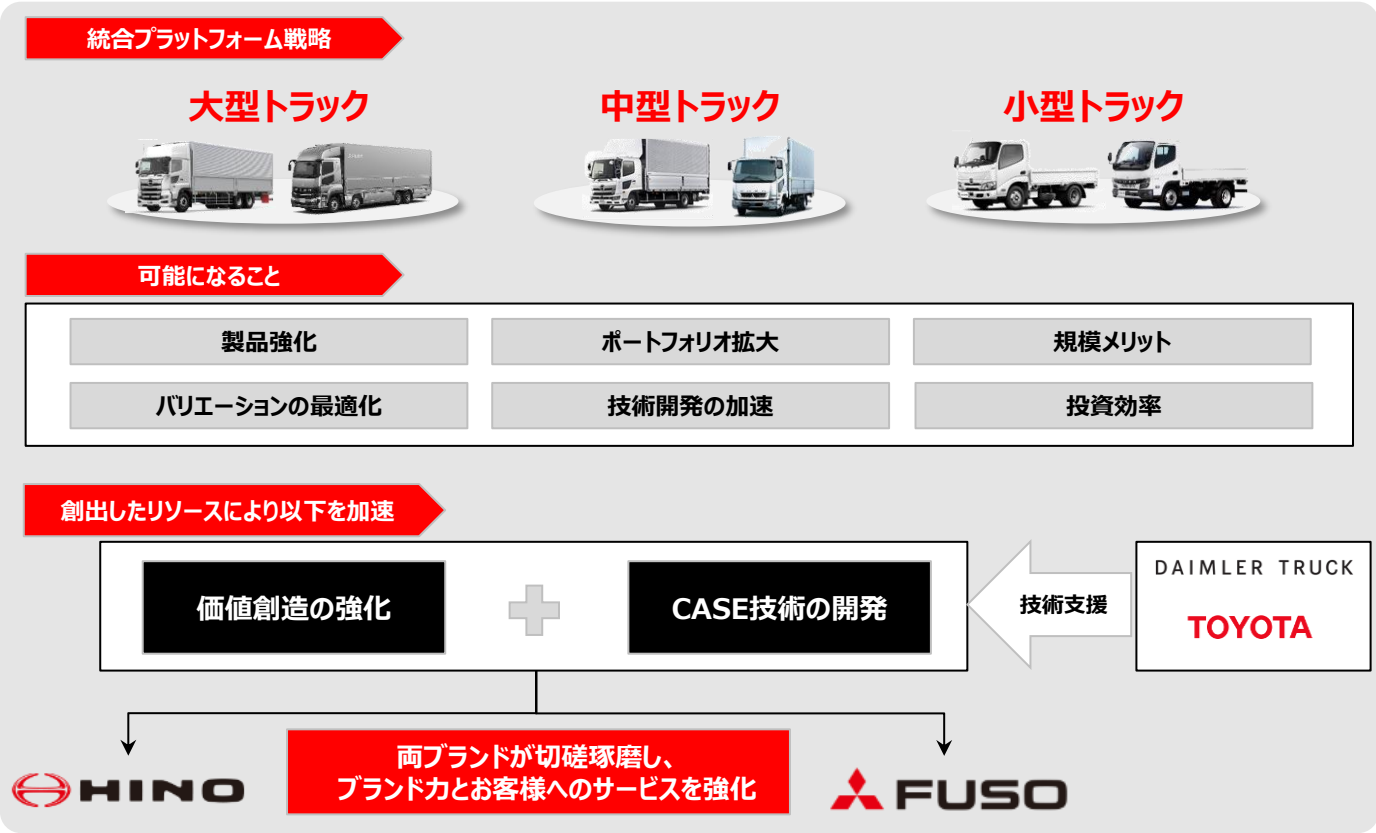
日野・三菱ふそう両社ともに日本とアジア各国における強固な基盤を持つブランドであり、その他の地域においても、互いの強み・弱みを補い合うことで、より多くのお客様のビジネスに貢献出来ると考えております。加えて、製品においても、両社が互いの強みを持ち寄ることで、最適な製品ポートフォリオを実現できる、最適なパートナーであると考えております。



* 出典：販売台数情報は日野自動車IR資料及び三菱ふそう社内資料より

■ お互いの強みを掛け合わせる「統合プラットフォーム戦略」

大型、中型、小型トラックのプラットフォームを統合し、両社の強みを活かすとともに、コスト効率性を高め、より良い商品をタイムリーに市場投入できる体制を実現します。日野とふそうの両ブランドの車両をお互いに活用することで、より充実した製品ポートフォリオを提供していきます。さらに、統合・効率化により生み出されるリソースに加え、トヨタ、ダイムラートラックを含めた4社の技術資本とスケールメリットを生かすことで、お客様への価値創造とCASE技術開発を加速、両社のブランドを強化してまいります。



■ 新持株会社名「ARCHION」(アーチオン)

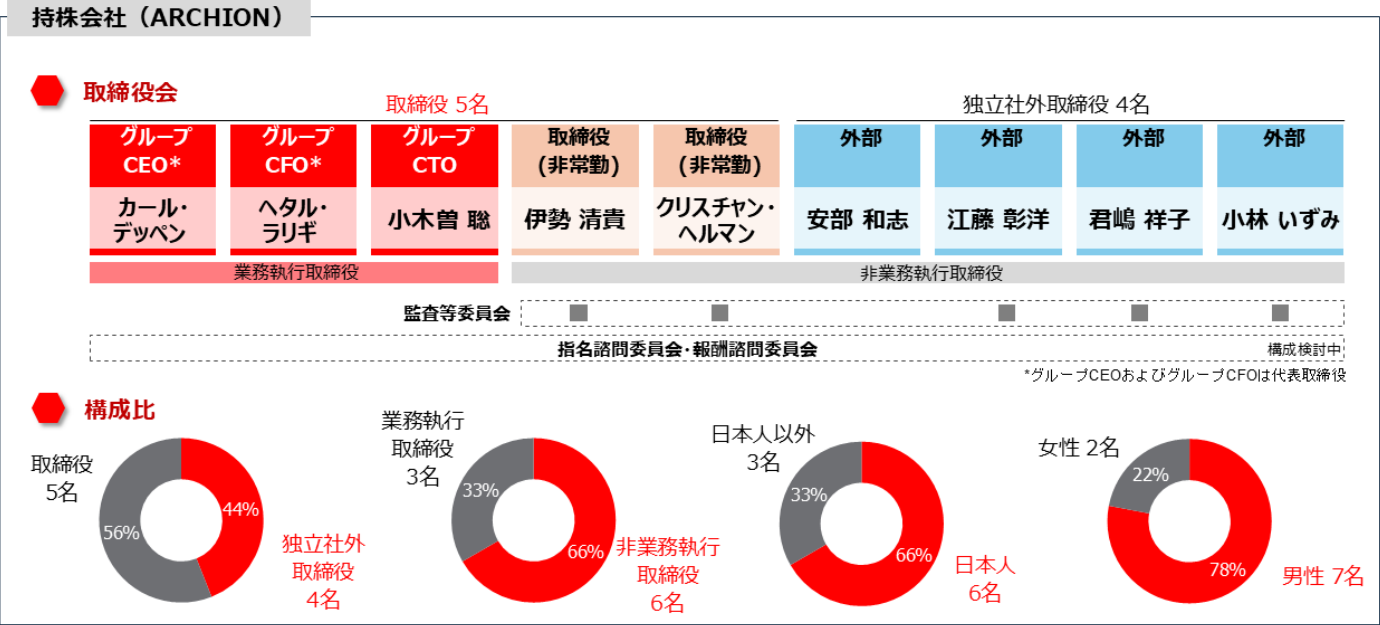
英語で弓型の構造物を意味する「ARCH」と、遠い過去から未来まで続く様子を意味する英語の「EON(ION)」を融合させた言葉です。会社とステークホルダー、そして三菱ふそうと日野をつなぐ絆を、また、輸送の未来を創造し、より良い暮らしを次世代に受け継いでいく志を表しています。



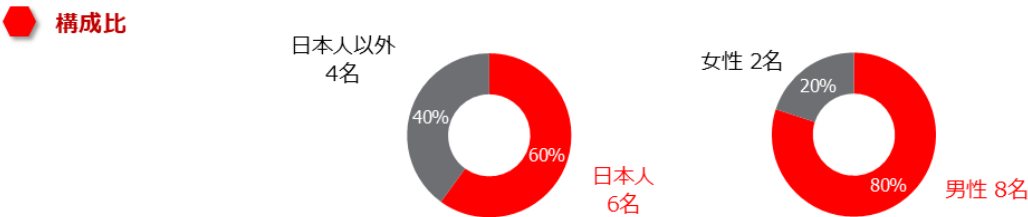
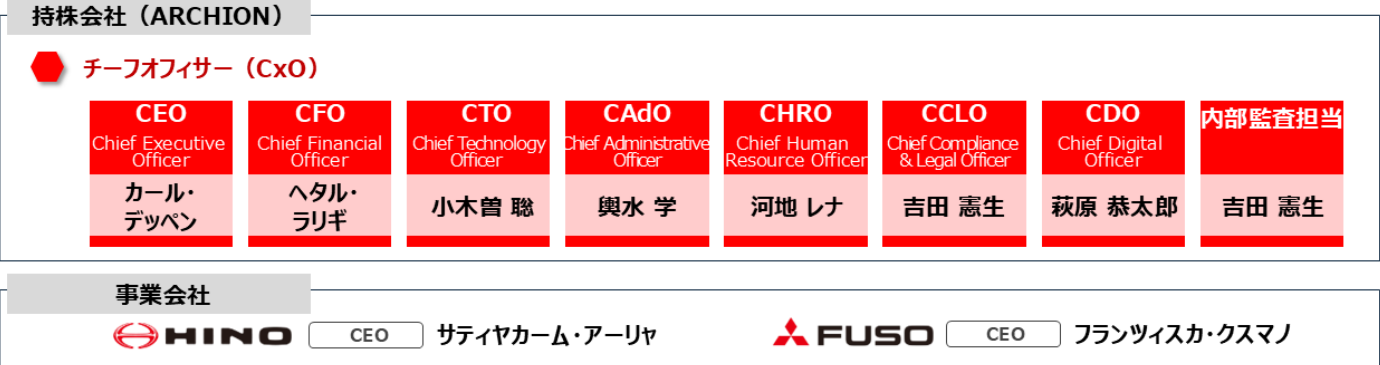
■ 適材適所の経営陣を選任、強固で透明性の高いガバナンスを構築

新たに発足するアーチオングループを束ね、グローバル成長を目指すために必要な変革を進め、未来を切り開いていける人材という観点から適材適所の経営人材を配置しています。また、独立性と多様性に配慮しつつ各界での豊富な経験を有する社外取締役を選任し、上場企業として適切なガバナンス体制を構築します。

取締役会



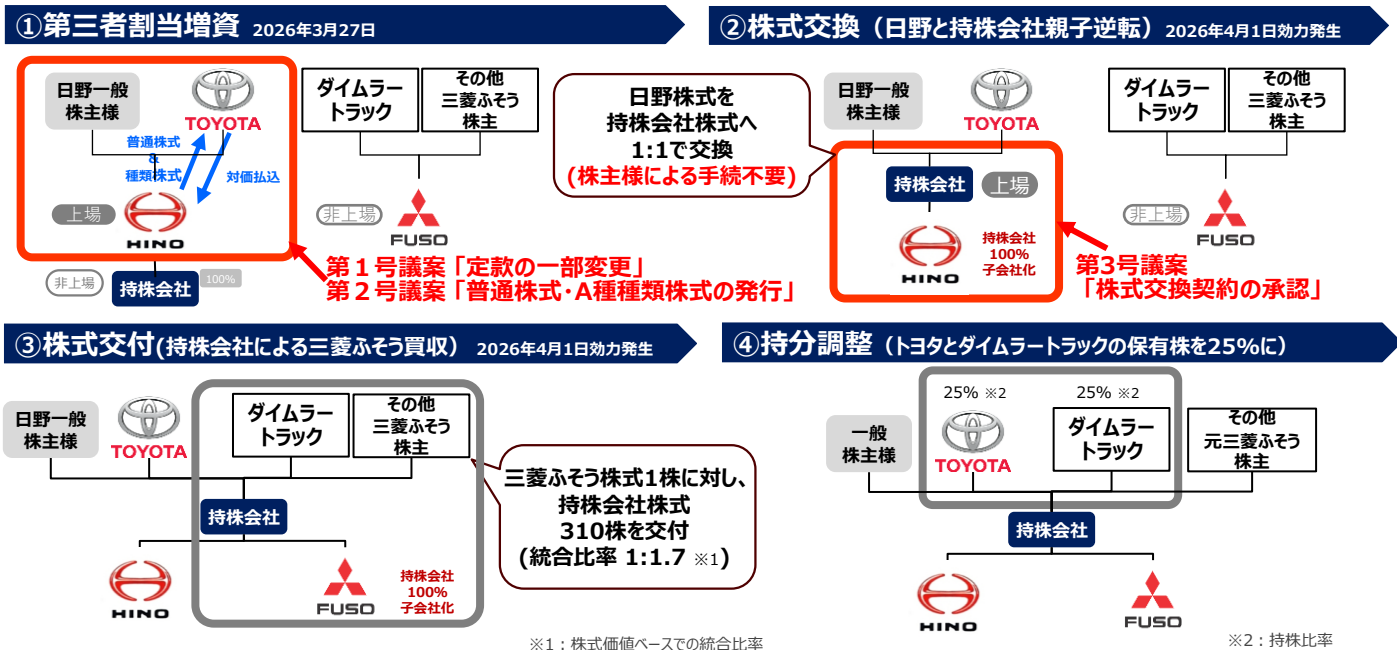
チーフオフィサーおよび事業会社CEO



■ 本経営統合のプロセス

本経営統合は今後以下 4 つのプロセスにより実施される予定です。

- ①**第三者割当増資**：日野がトヨタに対し、普通株式と無議決権種類株式を発行し、対価として現金を受領します。
日野は、払込対価を原資としてトヨタからの借入金の弁済に充当し財務状況の健全化を図ります。
(これに伴い、**第1号議案「定款一部変更」**、**第2号議案「第三者割当による普通株式及びA種類株式発行」**を決議いただきます)
- ②**株式交換**：株主様が保有されている日野自動車の株式と持株会社の株式を1:1で交換します。
これにより、日野と持株会社の親子関係が逆転し、日野は持株会社の完全子会社となります。
(これに伴い、**第3号議案「当社とAIB株式会社との株式交換契約承認」**を決議いただきます)
- ③**株式交付**：三菱ふそう株式1株に対し、持株会社株式310株を交付します。(統合比率 1:1.7 ※1)
(持株会社と三菱ふそう株主間での取引のため、本総会決議対象外ですが、**このプロセスを行うことを前提として第3号議案を決議いただきます**)
- ④**持分調整**：トヨタとダイムラートラックの持株会社株式の持分比率が双方25%となるように株式の売却等で調整します。



■ 本経営統合・株式交換に関するよくあるご質問

Q1. 私が持っている日野の株（100株）はどうなるのでしょうか？

A. 経営統合により、新たに設立される持株会社の株と交換されます。
日野の1株に対して、持株会社の1株が割り当てられますので、日野の株を100株お持ちの場合は、持株会社の100株と交換されます。

Q2. 交換をするには、手続きが必要なのでしょうか？

A. 自動的に交換されますので、お手続きの必要はございません。

Q3. 交換される前に、日野の株を取引することはできますか？

A. 予定通り2026年4月1日（水）が経営統合の効力発生日となる場合、2026年3月30日（月）が上場廃止日となりますので、その前営業日の2026年3月27日（金）取引時間終了までは日野の株式の市場取引が可能です。

Q4. 持株会社は上場しますか？いつから取引できるのでしょうか？

A. 2026年4月1日に、東証プライム市場に上場する予定ですので、それ以降に持株会社の株を取引できるようになります。

Q5. 持株会社の株価は上がるのでしょうか？配当は出るのでしょうか？

A. 日野と三菱ふそうの経営統合によるシナジー効果を創出することで、復配も含めて中長期的に株式の価値を高めることを目指してまいります。

Q6. 日野と三菱ふそうの「株式価値比率」が1.00：1.70とありますが、どのような意味でしょうか？

A. 持株会社の株と交換するにあたり、日野の株の価値を1とした場合、三菱ふそうの株の価値の比率を1.7とするという意味です。
詳細は下記表をご参照ください。

（単位：百万株）

	現在	第三者割当増資後	経営統合実行直後
日野 発行済株式数	日野株式 575	日野株式 1,021	持株会社株式 1,021
三菱ふそう 発行済株式数	三菱ふそう株式 5.6	三菱ふそう株式 5.6	持株会社株式 1,736

第三者割当増資
約2000億円
(+446百万株)

株式交換
1：1

株式交付
1：310

株式交付における
株式価値比率
1：1.7

Q7. 売上も利益も日野の方が上なのに、三菱ふそうの株の方が価値が高いということでしょうか？

A. 日野は認証不正問題の公表以降、お客様への補償や海外における制裁金など、長年に渡る過去の不正の代償により企業価値が毀損してしまいました。これまで、財務体質の強化に向けた資産売却、稼ぐ力の強化など進めてまいりましたが、認証不正による影響は大きく、残念ながら三菱ふそうの株式価値よりも、低くなる結果となりました。

Q8. 「第三者割当」とは何でしょうか？

A. 普通株式およびA種種類株式を、合計約2,000億円分発行してトヨタに割り当てることです。
これを行うことで、認証不正によって生じた借入金の弁済を行い、財務状況の健全化を図ります。

Q9. 「A種種類株式」とは何でしょうか？

A. 議決権のない株式のことで、配当などの経済的な権利は普通株式と同じです。
持株会社の独立した事業運営を尊重して、競争法の課題をクリアするには、持株会社におけるトヨタの議決権の比率を、20%未満にする必要があると判断したため、第三者割当において、トヨタに議決権のないA種種類株式を付与いたします。

Q10. 臨時総会で議案が否決されると、私の株はどうなるのでしょうか？

A. 株主様の株式は現状のまま維持されますが、持続的な成長のために必要と考えている三菱ふそうとの経営統合が難しくなるため、当社の将来戦略に不透明感が生じ、株式市場の反応によっては株式の価値が変動する可能性があります。